



道二翁道話五篇

拾

下

| |
|------|
| □ 9 |
| 3406 |
| 12 |



皆海川のいせとて骨折る。此食物をめぐりてのりや
 山く谷く田畑の抹紙と漚中。神とまあるや。其後
 い業業と振出し中。吾々天命の職分其位を承して
 終ふ外と執りた母のきくがらの通り執りてござる。其
 衆達の次女が見せさる先才一男女のまうらうが知さぬ
 天窓の狸く糞をいり懸腰のりうに少し。ものと巻て
 おる。履物の世話へくだたましく履は足さうのくは足
 中もみりの履てわり。其中よのい娘もあきと。皆後
 のやうなりのトヤ路ふよのう先おきとらて竹籠の
 中うまのりと天窓よとしておる。食物は牛馬の喰やう

みののと喰ふて天命を樂んでござる。世系本る落へ中り
 ましと耐かい。植付の以でござる。はしとが娘達何れ海
 で繩の纏。田植の体も又焼の系や。山の系へとりて。たむこ
 の〜〜互よあたまあ〜と立てわり。ハツ耐かよ中食が
 焼飯。是が麦でい返し粟でも返し。中りごとつて米の糠
 トやまが田植の小登とてまよ。よいのトヤ。常よ肉での
 喰物の三度く〜番やう。穽やう。粟やうで米なるとい。向
 喰ひ。牛のらふやうる物喰て去回よ。後でも。親も兄弟も
 婦和合よ。返しま〜。天のあふる樂として。是納してござる。
 い。滋よせと書物トヤ。其間くよの山持谷うせ。た朝の星

をいさきたる月を友にし。あゝ春ののいらぎさく。一日
芝居見よ新とらふりある。京や大坂の女中のやうな
發給てわりののい世界中一歩のみは「雪隠とりの三
壁の荒蕪板が二枚まじしてある。泥炭で通ふ靴板の
いながら其板を跨てし紙のい隅は本が並べてある。
園守ドやまでこそげる街歴くのう葉ドや山家ぐま
ひのく。芝居まじしよるゆへ葉がとくぬい。是が日本
むうりむやぬい唐土の大國志やよめて下國がまひ
無門園の如何なるう是佛乾屎極屎篋ドやこそ
げと流と縁で掛ふく隅に立てる。唐土のよめり

候約ドやまううを見よは本春の治の母より乃沙法ドや又
紙後流でい雪隠の例に繩が引張てある。其繩は股け
てこそげる。将の明ののドやよふふを春のう介天
命ドやう。是とあふ京大坂の女中の方と二十日程細
まうりぐさして見よとらと肉のむ難いゆが知して
今日が大切な方。又山里の家はは蚕と鮎を懸と
唄る商人の唄とる。其外諸國乃山く谷く浦く海くの
河らうと葉集り中賢同をへ送り出。又同をう京
へ出。大坂へ出。又大坂う江戸へ出。御る箱の河あふ
ら勿神といや。考へてはらうじませる石田先

かんと後けてましまふ。あつた。獲るる多れと後で助る。世
界中の所恵とあるなり。其の所に當りて不意の死
とじつる人の世界の人の死の死替り又死ぶる人トヤ
まよひく。有縁無縁法思。万靈の回向も亦にまよひと
せやうらぬ。ドヤ。此言がまうが人勝い。ドヤその
外心中。投首。獲るる。食と病人と。うた世の獲
る。皆此方どもの死替りにえてござるのドヤぞえ。
多。びよそのりや。手でいるいぞ人
叔又一分の田地うり出る。物押。菜。禽。獸。若。本。虫。蜂。の
類。よ。あ。る。ま。ま。其。功。徳。廣。ふ。れ。ど。一。こ。い。ま。盡。ま。さ。ぬ。

其一二を奉ていん。先馬の勤め方。中く人間の乃ぶる
よあ。び。一。せ。勤。め。て。活。銀。と。く。一。張。り。多。く。は。食。糧。の
人の捕ひよあ。ぬ。若。の。獲。の。と。ら。中。う。な。り。の。喰。ひ。て。正
月の元日。三日の教入と。樂。く。と。一。年。中。中。ん
く。く。い。ま。だ。中。う。勤。め。て。お。る。其。外。は。休。む。一。せ。が
る。女。房。持。ど。無。云。の。初。朝。う。曉。ま。を。新。荷。と。答。負
て。ち。ち。へ。還。出。さん。こ。ち。へ。還。来。ら。ま。さ。一。改。痛。肢。痛。で。心
お。が。悪。ひ。日。も。あ。ま。な。れ。ど。不。屑。ら。し。い。類。と。せ。ば。疾。も。馬
部。屋。と。ま。り。と。守。り。つ。い。て。疾。あ。る。な。し。の。り。あ。く。な。く
ら。お。び。酒。の。ま。だ。一。日。六。居。見。又。村。と。ら。ま。ま。と。わ。く。一。生

勝りて居るがう只細くするに人あつぬゆへ何ぞのい
ひやういふ多うく若む心晴いううとや是と畜生と
も餓鬼とも云地獄も極楽も皆驢毛トやあまう
近うく見付さうと

相其外虫蟻の類よあつて皆悉くあつてツツ後
よまぬといふものない時人のあふ命と捨て神助け
るまうとごころたれど其功德と志しぬ故怒り知れ
怒り志しぬ平等に得るとも差別智に得るとは
正事のゆとや此差別智と得るといふ聖人邪佛で
るたれい志しぬので中へ凡まの強くとも及び絶と

ゆとやゆれども天乃饒る大慧の本とツツ中嚙やし
ませう先人の内は漏れ出まへ方命の慧が何ぞ人
其慧と志しぬ故まづ飯握りて箱の縁ぐるるとゆ
と毎うよ腹えり替へる是が怒り知るとも慧を志し
ぬゆとゆゆのトや先家の内は極地中うく慧とゆ
大毒虫が這よる此虫の人は對して大毒也其毒虫と
是極毒とがしゆりて食物とゆわが天命の家業業
のあまは業とあまのあふ命の慧其毒虫と制止
てまする業るんが忽ら今日命の慧でいあまう此は
のやよ慧虫の吐霜猶の吐虫のといふ大毒のすじ

をじしらく人を射らばむ。何と天乃の仕業といふもの。
少しゆゆこのない様ゆ屋の物トやごころませぬ又
書物の中は白臭といふ虫が漏れて居る。動く風何と
うこの火淡せがみが出る。秋の去トやごころう世話やぬ
誰が地水火風とおて付てじしらくこのぞ。ら向と不審付
てはらうじませ書物も箱に入置を向うとるやないおく
出ると見ぬと向魚が涌とつてぬ。此骸も時々吟味せ
ぬと。人欲といふ白臭が漏れて向うとる耳も鼻も口も
うも。出這りして後には骸と喰てままいとる。御用心と
まませ。又の寝むきの乃蚊ハ何のおトや。是れもなれだ

ちやぬ。あトや。何が日着の時か。又日ぐる一日働いて日くま
ゆ水仕也。丸裸にあく凍んでぬ。何が一日の茶粥でどる
く血向いごごる。不人蚊が来て世話中いてごごる。ゴク
毛髪換も嗜しや。蚊家の内は寝てる人居寐が悪さよ。
寝冷しこのイヤ腹痛のと。噴しう糞するトや。なうと。な
滅相の此吹んぬし。丸裸で寝てたまるもの。秋はに
まで毛並。又雪隠へは百度集り。ちやぞや。まといまの
と。な。今トや。よ。う。ぐん。蚊。を。乃。内。へ。這。入。ま。や。ま。
あ。か。と。ゴ。ク。く。し。ん。く。世。話。な。さ。る。命。乃。大。懸。と。い。ま。く。は。
恨。忌。しい。蚊。め。が。と。腹。を。ま。め。向。う。毎。時。又。こ。ま。い。骸

とうき淡されても。中(ちゆう)のう(う)穢(け)の衆(しゆ)がぐくぐくして世(よ)
 してござる。此(こゝ)中(ちゆう)う(う)なま(なま)実(ま)る(る)世(よ)活(か)中(ちゆう)も(も)が(が)ど(ど)こ(こ)に(に)あ(あ)せ(せ)乃(の)で。
 ま(ま)で(で)や(や)う(う)く(く)と(と)吸(く)家(か)の(の)内(うち)へ(へ)こ(こ)ろ(ろ)く(く)と(と)這(こ)入(い)装(ま)中(ちゆう)吸(く)佛(ふつ)の
 世(よ)活(か)る(る)い(い)と(と)秋(あき)は(は)病(びやう)人(ひと)う(う)け(け)。こ(こ)を(を)炊(た)り(り)ま(ま)い(い)と(と)世(よ)
 中(ちゆう)ふ(ふ)出(で)て(て)ござ(ご)る(る)の(の)ト(ト)や(や)そ(そ)ろ(ろ)く(く)き(き)う(う)ち(ち)り(り)と(と)吸(く)佛(ふつ)の(の)
 仲(な)回(ま)が(が)い(い)合(あ)せ(せ)先(せん)番(ばん)の(の)方(かた)う(う)世(よ)列(れつ)た(た)る(る)る(る)。十(じゆ)月(げつ)次(じ)よ(よ)あ(あ)く(く)
 猴(さる)出(で)て(て)腰(こし)よ(よ)と(と)の(の)み(み)て(て)も(も)蒲(ふ)團(だん)引(ひ)く(く)ぶ(ぶ)る(る)。そ(そ)の(の)時(とき)を(を)ま(ま)ま(ま)ぐ(ぐ)も(も)ま(ま)ご(ご)
 テ(テ)ろ(ろ)く(く)出(で)て(て)世(よ)活(か)る(る)る(る)。何(なに)と(と)條(じょう)紗(し)屋(や)の(の)事(こと)ト(ト)や(や)る(る)い(い)時(とき)
 天(てん)乃(の)世(よ)光(くわう)明(めい)ト(ト)や(や)ど(ど)人(ひと)世(よ)救(きう)の(の)目(め)が(が)結(むす)構(かま)る(る)ま(ま)に(に)な(な)る(る)と(と)ま(ま)ご(ご)
 ト(ト)や(や)世(よ)救(きう)目(め)と(と)ど(ど)う(どう)し(し)て(て)あ(あ)る(る)ぞ(ぞ)と(と)い(い)ハ(ハ)目(め)著(しやく)る(る)よ(よ)出(で)る(る)編(へん)幅(ふく)の(の)

糞(くそ)で(で)あ(あ)る(る)と(と)の(の)み(み)タ(タ)ト(ト)や(や)人(ひと)の(の)利(り)功(こう)る(る)者(もの)ト(ト)や(や)世(よ)編(へん)幅(ふく)の(の)糞(くそ)と(と)
 あ(あ)く(く)論(ろん)して(して)長(なが)い(い)桶(おけ)の(の)底(そこ)に(に)ど(ど)ろ(ろ)く(く)と(と)と(と)物(もの)が(が)漏(ぬ)る(る)。其(その)
 ど(ど)ろ(ろ)く(く)と(と)砂(すな)の(の)中(ちゆう)う(う)る(る)の(の)が(が)吸(く)の(の)目(め)ト(ト)や(や)夜(よ)明(めい)砂(すな)と(と)ら(ら)ん(ん)く(く)
 目(め)着(しやく)に(に)ま(ま)く(く)き(き)み(み)と(と)の(の)み(み)タ(タ)ト(ト)や(や)と(と)ん(ん)が(が)一(いち)切(き)る(る)け(け)と(と)い(い)る(る)
 ぬ(ぬ)井(い)方(か)ト(ト)や(や)又(また)編(へん)幅(ふく)の(の)糞(くそ)の(の)ど(ど)ろ(ろ)く(く)と(と)一(いち)切(き)出(で)難(がた)く(く)巻(ま)く(く)信(しん)妙(めう)
 除(じゆ)の(の)時(とき)は(は)漏(ぬ)る(る)と(と)俵(たわ)は(は)して(して)結(むす)束(たば)屋(や)へ(へ)お(お)て(て)来(き)る(る)。此(こゝ)外(がい)風(かぜ)の(の)起(お)き
 と(と)治(ち)く(く)。登(のぼ)り(り)積(つ)雪(ゆき)と(と)散(さん)ど(ど)ろ(ろ)く(く)と(と)一(いち)切(き)出(で)難(がた)く(く)巻(ま)く(く)信(しん)妙(めう)
 め(め)く(く)人(ひと)の(の)お(お)よ(よ)出(で)く(く)。命(いのち)と(と)捨(すて)て(て)世(よ)活(か)る(る)る(る)。其(その)後(ご)く(く)功(こう)
 徳(とく)の(の)う(う)ま(ま)り(り)は(は)ま(ま)ご(ご)と(と)差(さ)別(べつ)智(ち)と(と)得(と)く(く)る(る)由(よし)人(ひと)怨(うら)い(い)ま(ま)ご(ご)と(と)世(よ)
 息(いき)乃(の)不(ふ)死(し)知(ち)ぬ(ぬ)と(と)い(い)残(ざん)念(ねん)る(る)の(の)ト(ト)や(や)ど(ど)ろ(ろ)く(く)と(と)目(め)と(と)道(みち)

て出づりしませ。森羅万象一切の物引くるめて。諸人念ひく
 のお小命と捨てて助けて下さる。何と勿神といひてゐる。い
 今飲此茶一盃は何種の功德が籠てゐぞ。神道では八
 百万の神達佛道で一切の諸佛諸尊の所若勞で二
 むけし。飲たぬ其大神と臨おて出らじしませ。先茶の本
 井。茶袋茶。茶合茶。水茶。榎茶。大茶。寛茶。厚茶。炭
 茶。茶碗茶。拍茶。茶よめとよ茶。御飲茶。精進茶。眞
 茶。約瓶茶。桶田子茶。茶袋の布よめと機具茶。何種の
 ぞ一と云海しご。滋養百味の忌食しやら。何と御眞
 加と知しるる。ぬぬぬ。此中へは助けて下さる。其御

礼一といひ。何れ熱神を引くる。南無阿彌陀佛
 と。一切諸佛諸尊が込くる。南無妙法蓮華經といひ。
 十方より三世の諸佛。多宝如来と込てある。神道では
 天照大神と神代八百万の神々。攝込てある。また奉
 じしや。大晦日や。奉饗は荒神様。神明として出れや
 せは。稻合茶。茶碗茶。籠茶。まての出れが込てある。まて
 本。燈のこけて出れや。せ。拍茶。榎茶。も込てある。雪
 隠。出れや。せ。小夜田子茶。まて。お。剛がこつ。炭
 茶。まて。もの出れが込てある。雪隠の内よ。まて。板茶がこご
 ら。の。尿の中よ。まて。や。ぬ。お。瓜。ら。ご。如来と

故に多くは助け下さ。安いの程は慈が海に。一年に
 と一度り二度りなりぬ金庫風の物も存。ふと板舟指立功
 徳がよい綴のよけいぬのよえ物やと親は様の河慈が海に
 の。親い物さゆむくして慈せり親は様方いまやど若くそ
 ろい。親は様の海しいのいふ人慈恵の海に天上。又子にいま
 いのいふ慈恵の天と。昔く河摩く様の親は様方。む
 ぶ親さびぐいまれ後く大徳よはぬさゆ。世界と由
 恵さるるも。中ゆ。天地の河慈の中まや。元朝く大
 悔日と。うくうくする天地のゆさま。トヤ
 花いさるね葉のりらそ。修まい。で教ゆ。我のりのら

此の頃のり菊の葉も。雨の降のりも。風の吹のりも。月の後も。雪
 の降も。器りきいし。是皆誰がる。トヤぞ。人さゆ。うへ天
 地の河慈。実面白さ。み揺る。此河慈。教らる。い。ぞ。ぞ。おと
 ば。し。う。ま。く。人。の。道。と。勤。め。ゆ。ふ。の。ト。ヤ。別。よ。し。ゆ。い
 事。い。つ。ぬ。河。制。れ。く。通。り
 一親子兄弟夫婦と。はじめ。諸親類。よ。ま。じ。く。や。人。の。ま。ま。ま
 ま。ぞ。これ。と。ゆ。い。ま。じ。ぐ。一。人。の。輩。の。押。の。く。其。ま。ま。ま
 情。と。ゆ。い。ま。じ。事。

一家業。専ら。は。悔。の。り。ち。く。万。事。其。分。限。よ。い。べ。う。く
 ぶ。ら。り。や

第一言三篇
 第一言三篇

此流の子孫遠ひぐ。夫は道は病と付てゐる。勿体ないの
 ドや。其は蒸本心の心得遠ひを能授けして。イヤ女流
 の社中も當ふかゝぬぞや。鼻をんぐりさうして押さ
 へよのよぬ。此も女流の社中が月安付らまゝか教
 えて先度傳らして付て女流の連中であらうぞ。
 種こそまぐのつりて。押さくぬるこれのたまは教は
 ぬ事トや。道の天石神佛聖人の道どうそ一人なり
 とも余斗まゝせまかりと先生乃骨おて世世傳
 るる。教への業トや。其は蒸本心の教トや。冥加
 ないのトや。うを能合意しこがよい。此中うまのりとんを

くまはけさいでもたるのういふれど。何よも知ぬ初心の流
 中。悪いのりだも門つるとも女流の社中も南志のま
 流も女心の悪いのトや。流のこまひのトやと悪大
 嘆息して。原けの番物も悪くて引込流がまゝいまでい
 悪平等の大合は浅きもの。此中うまのりけいといまはけ
 しせよや。かろませぬ。是は年表流歴への由動トや。な
 い。何よもまゝぬる流や女中の方へ心得のあふや。是の
 でござります。老中うおがしやませ

道二翁道話五編卷之下終

けりる流披をるやよひ
 道二翁道話六編 全部三冊
 京都上河洪水先生校

系於上河先生校

松翁先生道話

紀別後田先生園

板行出本任以清求
御覽身於

文化元甲子年四月發行

明誠舎之部

弘所書肆

大坂心齋橋南壹丁目

敦賀屋九兵衛

同 農人橋通谷町

本屋吉兵衛

